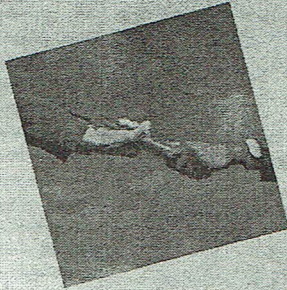
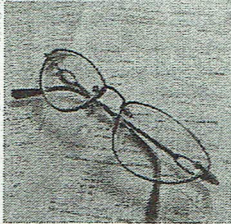


# 近畿ソーシャルビジネス・ネットワーク広報誌



## 近畿ソーシャルビジネス・ネットワーク始動

平成20年11月20日、近畿2府5県のソーシャルビジネスを振興するための「近畿ソーシャルビジネス・ネットワーク」が設立されました。これまで、それぞれの府県内で個々のSB支援を行ってききましたが、今回は、近畿圏内のSB事業者とSB支援者を結ぶ、初の試みです。11月20日のキックオフセミナーには、ソーシャルビジネス研究の第一人者である一橋大学大学院商学研究科教授の谷本寛治先生をお招きし、日本におけるソーシャルビジネスの課題と展望について語っていただきました。また、後半のパネルディスカッションでは、大阪商業大学総合経営学部教授の初谷勇先生がコーディネーターとして、ソーシャルビジネスの先進事例3者にご報告いただきました。それぞれユニークな事業を展開されており、聴衆にも興味深い内容でした。

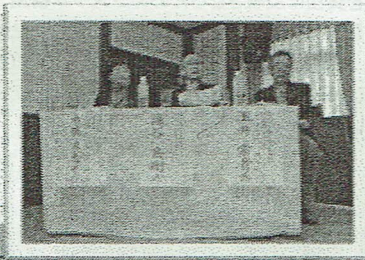


●谷本先生

この日を皮切りにいよいよ近畿ソーシャルビジネス・ネットワークが動き出しました。ソーシャルビジネスにとってみればまだまだ小さな一歩だが、多くの人に支えられて船出できたことが何よりも財産となった1日でした。



●初谷先生



●パネラーの皆さん



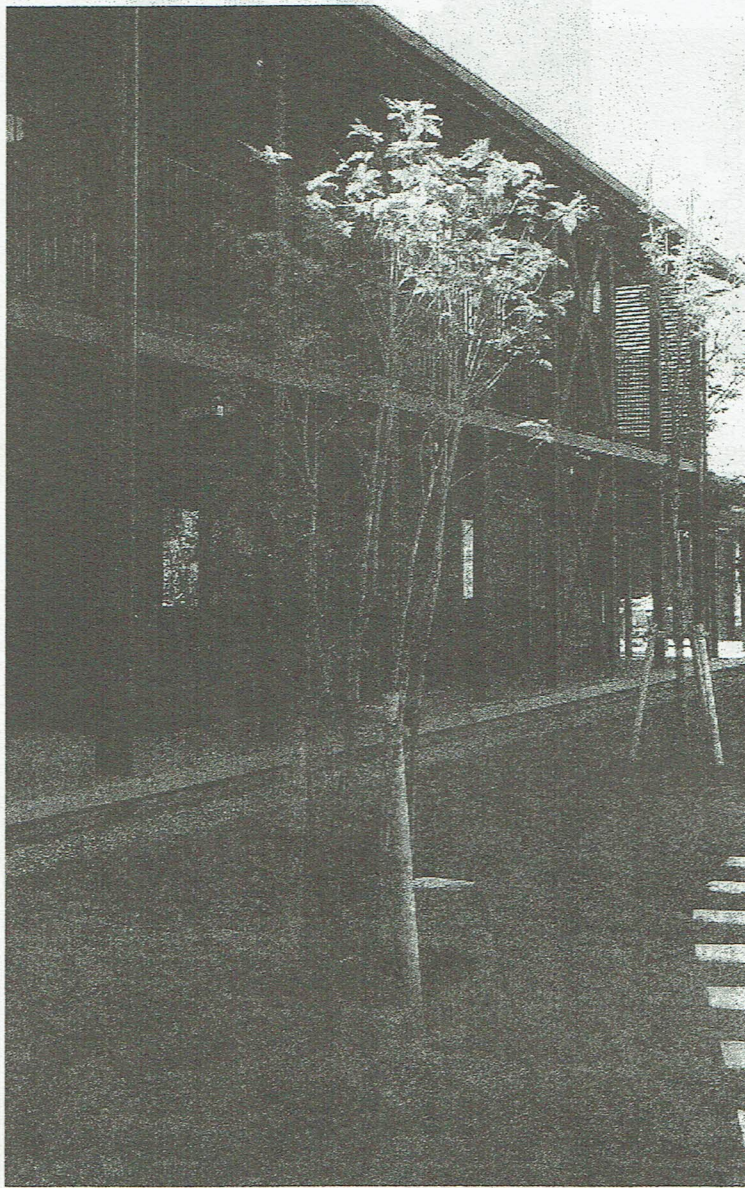
満員御礼！

### 目次

「近畿ソーシャルビジネス・ネットワーク始動」	1
研究会もスタート！	2
近畿ソーシャルビジネス・ネットワーク 平成20年度研究会概要	2
テーマ別分野セミナー 「食」と「農」を実施	3
ソーシャルビジネス事例紹介	4
近畿 SBN☆NEWS！	4
編集後記	4

# ソーシャル ビジネス

2009  
Vol. 01  
創刊号



## 秋津野ガルテンの取り組み

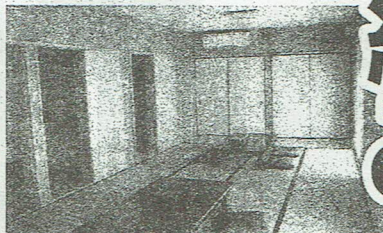
- 02 ■ 日本におけるソーシャルビジネスと近畿SBNへの期待
- 04 ■ 近畿SBNへの期待
- 05 ■ ソーシャルビジネス、ソーシャルプロダクト発展への思い
- 06 ■ 「ソーシャル・ビジネス概論」  
(1) ソーシャル・ビジネスって何?
- 07 ■ ソーシャルビジネス起業のノウハウ
- 08 ■ 近畿SBNニュース

2003年、地元小学校の木造廃校舎再利用の方向性や基本的な考えを地域で検討した結果、「教育・体験・交流・宿泊・地域」がキーワードであるという結論に至り、地域資源を活かし、地域づくりと経済活動の両立を目指す事業を展開することとなった。

そこで、農産物直売所「きてら」開設、農産物加工グループ「俺ん家ジュース倶楽部」結成に続き、「農業法人 株式会社秋津野」(2007年)を設立した。事業内容は、食育(食農教育)事業、オーナー樹(園)事業、市民農園事業(「日帰り型」と「滞在型」)の展開、農家レストラン「みかん畑」、宿泊滞在施設「秋津野ガルテン」の運営等、多岐にわたる。木造廃校舎を利用した「秋津野ガルテン」は交流拠点施設であり、約30人が宿泊可能となっている。今後は農家民泊との組み合わせによって交流の裾野を拡げていく。

さらに、地域をマネジメント・プロデュースできる人材を育成することを目的とした「秋津野地域づくり学校」(経済産業省補助事業)を開設している。

地域の自然・文化・人的資源等を有効に活用し、「農」を基軸とした持続性のあるソーシャル・ビジネスを展開することが、農村地域の維持・発展につながると考えている。



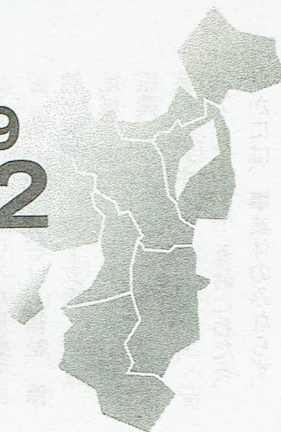
団体プロフィール / 農業法人 株式会社 秋津野

地域内外からの出資を募り、農とグリーン・ツーリズムを活かした地域づくりを目的として設立。2008年9月30日現在、資本金4,180万円、株主数489人。地区内からは290人(1,190株で議決権あり)、地区外からは199人(900株でA種議決権制限株)

住所 ● 和歌山県田辺市上秋津4555-8  
HP ● <http://agarden.jp/>

# ソーシャル ビジネス

2009  
Vol.02



## 貧困問題にチャレンジ、



## 「ビッグイシュー」の試み



- 02 ■ ソーシャルビジネスの可能性  
— 社会を変える力に —
- 04 ■ 近畿ソーシャルビジネス  
フォーラム2009
- 05 ■ あなたの活動を応援します!!  
商工会・CB広域啓発・支援事業から
- 06 ■ 「ソーシャル・ビジネス概論」  
(2) ソーシャル・ビジネスと企業家
- 07 ■ ソーシャルビジネス起業の  
ノウハウ 連載NO. 2
- 08 ■ 近畿SBNニュース

「ホームレスの仕事をつくり自立を応援する」。ビッグイシューは英国で1991年に生まれ、日本版は2003年9月、大阪で創刊されました。月2回(1日、15日)発行の雑誌販売をホームレスの人に独占してもらって仕事をつくりました。1冊300円の雑誌を、最初の10冊は無料で提供、その売り上げ3,000円を元手に、以後は140円で仕入れ300円で販売し、その半分以上の160円を彼らの収入にします。私たちは、ホームレスの人を憐みや救済ではなく、対等なビジネスパートナーとする事業体、社会的企業です。現在、12都道府県で、150人が販売し、1号当たり3万5千冊を発行、2009年7月末まで5年11ヶ月間で335万冊を売り、ホームレスの人たちに4億1,968万円の収入を提供しました。また、この間、966人が登録し、89人が卒業しました。

私たちはホームレスの自立を3つのステップで考えています。第1ステップはドヤ(簡易宿泊所)やネットカフェに泊まり路上脱出(1日の平均的な販売数20~25冊で可能に)、第2はアパートを借り住所をもつ(30~35冊で可能に)、そして第3は住所をベースに就職活動を行なうことです。

さらに、この自立を促進するため2007年9月、非営利団体「ビッグイシュー基金」(www.bigissue.or.jp)を設立しました。

(有)ビッグイシュー日本

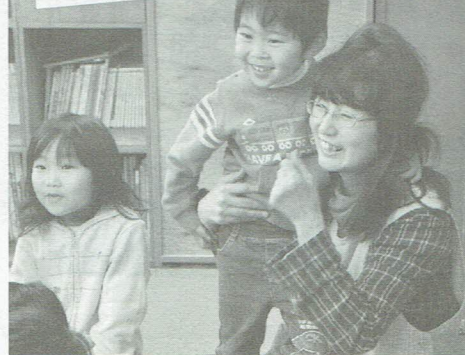
2003年5月有限会社ビッグイシュー日本を大阪で設立。現在、フルタイム社員17人、パート5人、インターン5人、社外に登録制の40人の雑誌制作スタッフがいる。また、基金も合わせ400人をこえるボランティアが登録し活動をしている。  
連絡先 〒530-0003 大阪市北区堂島2-3-2 堂北ビル4F  
電話 06-6344-2260 Fax 06-6457-1358  
Eメール info@bigissue.jp URL http://www.bigissue.jp

# ソーシャル ビジネス

2010  
Vol.03



ようちえんごっこ  
プチぱれっと  
の試み



- 02■ 農商工連携の意義と農林水産関連  
ソーシャルビジネスへの役割期待
- 04■ 環境省における環境系SBや  
事業型NPOへの支援体制がスタート
- 05■ 和歌山県のソーシャルビジネス
- 06■ ソーシャルビジネス概論③  
(3)ソーシャルビジネスと企業家
- 07■ ソーシャルビジネス起業の  
ノウハウ NO.3  
より良く伝える『情報発信』
- 08■ 近畿SBNニュース

1998年、公立幼稚園の入園抽選に洩れた子どもたちの居場所として、集会所を借り、「ようちえんごっこくらぶ・さくらぐみ」をスタート。さくらぐみが、子育て支援&子育て中の保育士の就労支援にもなることに気づき、責任を持って継続していくために2003年法人化。「ようちえんごっこ プチぱれっと」として、ニーズに応えながら、クラスを増やし、現在、高槻、茨木、吹田で、13クラス、約200人の子どもたちが週に1~2回、1年を通して、通っています。子どもたちがいっぱいふれあって遊べる「プチぱれっと」は幼稚園入園前の2・3・4歳児の子どもたちへの有効な子育て支援です。かつ、子育て&介護中でも働きやすい職場になっています。今後、他の地域でも、子育て支援をしたいと志のある方・団体に伝え、事業化を支援していきます。また、ぱれっとは、プチぱれっとを軸に、放課後保育、一時保育、ひろば事業等に加え、多機能小規模子育て支援の拠点をつくり、ポータルサイトくらぶ、多世代交流サロンを加え、さらに障がいがあっても高齢でも子育て中でも、だれもが地域の中で自分の仕事、役割をもって暮らしていける居場所を作りたいと計画しています。

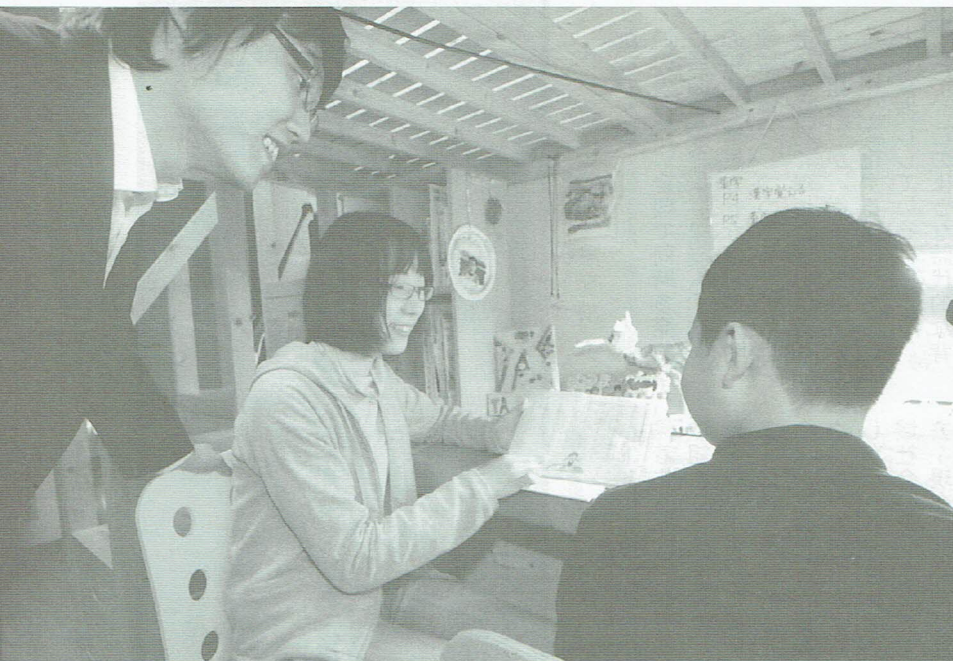
(有) office ぱれっと

2003年8月、女性、子ども、高齢者、障がいのある方、マイノリティの方々が安心して暮らせる地域づくりを理念に、法人化。2006年9月、同じ理念のもと、特定非営利活動法人NPOぱれっと設立。現在、2つの法人で、登録保育スタッフ41名、他スタッフ6名、ボランティアを含めると60人近くの人々に支えられ、事業を展開中。

連絡先 〒569-1034 大阪府高槻市大蔵司3-23-8 1F  
電話 072-687-3565 E-mail palette@if.tv  
URL <http://palette.if.tv>

# ソーシャル ビジネス

2010  
Vol.04



- 02 ■ アートを通じて  
地域社会をデザインする
- 04 ■ マイファームのあくなき挑戦
- 05 ■ ソーシャルビジネス探訪 I  
～NPO法人ねおす、  
株式会社知床エゾシカファーム～
- 06 ■ 情報発信を科学する I  
SBに今必要なのは、大胆な情報戦略
- 07 ■ ソーシャルビジネスセンター  
奈良が誕生
- 08 ■ 近畿SBNニュース

## 「あしたね先生」



あしたね先生は、発達障害、聴覚障害、不登校・引きこもりなど、特別なニーズのある子どもたちのための家庭教師派遣事業として、(一般社団) 子ども・青少年育成支援協会あしたねの事業のひとつとして行っているサービスです。単に学習指導するだけではなく一人ひとりに向き合い、子どもの心に寄り添いながら専門性を活かした支援をしています。ご家庭に伺う先生は、心理・福祉・教育を学ぶ学生を中心としており、子ども達の良き理解者、良き相談相手となるように、必ず専門知識やあしたね先生として求められる態度などを問う試験を受け、また、毎月行われる勉強会にてスキルを高めて頂いています。先生の対応により、勉強の習慣など無かった子が少しずつ勉強機に向かうようになってきたり、全てのことに自信が無かった子が、先生との関わりのなかで自信をつけていったりなど、様々なかたちで子どもの成長に繋がっています。先生とご家庭をサポートする機能として事務局が存在し、専門知識のあるコーディネーターが先生や保護者と密に連絡を取り、一人ひとりの子どもに対し丁寧にサポートをしています。



一般社団法人  
子ども・青少年育成支援協会あしたね

「あした花咲くたねを育てる」を理念に2009年法人設立。特別なニーズのある子どもたち、若者たちが自分の可能性を発揮し、社会で活躍できるようになるための様々な専門的な支援を行っていきます。現在は『あしたね先生』という家庭教師派遣事業を中心に実施しており、今後も様々なサービスの提供を計画しております。

# ソーシャル ビジネス

2011  
Vol.05



## 駅のバリアフリー情報を分かりやすく。 えきペディア

えきペディアホームページ

バリアフリー出入口・トイレ写真

- 02 和歌山県経済の現状と和歌山の6次産業を支えるソーシャルビジネス
- 04 近畿SBNメンバー紹介
- 05 ソーシャルビジネス探訪II  
～ウインド・カー株、NPO法人スペースふう～
- 06 情報発信を科学するII  
SBに今必要なのは、大胆な情報戦略
- 07 近畿SBN活動報告
- 08 近畿SBNニュース

BOOK版  
えきペディア  
横浜

BOOK版 えきペディア大阪

国内の主要都市では、公共交通機関をはじめエレベータなどバリアフリー施設の設置、整備は進みましたが、これらの施設の利用への案内は充分といえるでしょうか。特にターミナル駅や乗り換え駅では、エレベータや出口への経路を探し、多くの方が迷っている傾向にあり、車イスやベビーカー利用者には深刻な問題です。

「まちの案内推進ネット」では駅での移動経路が判りやすい案内マップを開発し、標準化に向けた取組を進めています。都市や交通機関が異なっても共通性のある案内は、利用者にとって、判りやすさを高めることとなります。現在、全国9都市の交通事業者や行政の協力を得ながらバリアフリー案内コンテンツを整備し、「えきペディア」システムとして展開しています。

インターネットでは全国の地下鉄721駅の案内マップや施設情報を公開し、バリアフリー冊子や観光マップなど印刷物での提供、iPhoneアプリなどモバイルでの情報提供を進めています。これまで、新潟国体やアジアユースパラゲームスなどスポーツ大会や食博覧会などのイベントにもアクセス案内としてコンテンツが採用され、障がい者だけではなく、すべての人にとっても便利な外出時の案内となっています。

京都市営地下鉄  
駅置きパンフ

iアプリ版えきペディア

### NPO 法人まちの案内推進ネット

2006年法人設立、地下鉄駅バリアフリー情報「えきペディア」Web サイト供用開始、2008年国内地下鉄網羅。2009年大阪版・2010年横浜版冊子発刊・各3万部無償配布。2010年 国内初、拠点ターミナルの移動円滑化案内マップ発刊/東北運輸局。2010年グッドデザイン賞、国際ユニバーサルデザイン協議会優秀賞受賞。

連絡先 〒542-0012 大阪市中央区谷町七丁目1番39号  
TEL.06-6768-7002 E-mail info@annai.or.jp  
http://www.ekipedia.jp http://www.annai.or.jp



“えきペディア”バリアフリー案内システムは、  
2010年度グッドデザイン賞(公共サービスシステム部門)を受賞しています。